

日本女性放射線腫瘍医の会 助成事業 報告書

関西医科大学 放射線科学講座 角田貴代美

今回私は、日本女性放射線腫瘍医の会 助成金事業に採択頂き、10月27-29日に名古屋国際会議場において開催されました、第49回日本癌治療学会に参加・口演での発表をさせていただきました。

今回の学会テーマは「Visionの共有、目標への第一歩」であり、がん制圧を目標としがん治療に関わるものが一堂に会し、理念の実現を目指すことを目標に掲げられておりました。その一環として、学会の新たな試みであるJSCO Universityというシンポジウムが開催されました。

癌腫、診療領域を網羅した14のシンポジウムがあり、拝聴することで世界の治療の最先端から本邦の位置づけまでを知ることが出来ることを、会長である西山先生が目標とされ開催されたものでした。

私はその中で、今回の自身の発表テーマでもある「Upper gastrointestinal cancers」のセッションを拝聴しました。日本の診断と治療のガイドラインに関する解説から、日本と世界の治療成績・病勢の差異に関する検討・現在進行中の臨床試験に関してまで幅広くご教授いただきました。手術を第一選択とされていた時代から、いかにして現在の化学放射線治療も含め集学的な治療へ変遷したかが解説されており、今後食道がんの治療に関して放射線療法が大きな位置を占めるであろうことがうかがわれました。

現在の治療のエビデンスとなっている過去の臨床試験についても多く解説頂き、知識を確かなものとすることができました。

自身の発表（演題：「頸部食道がんにおける化学放射線療法の治療成績」）では、大きな学会での初の口演ということもあり、かなり緊張しご質問いただいていることに関してインプットすることに精一杯でありましたが、食道がん治療に関わる先生方の臨床疑問を拝聴することで、今後さらに自身が検討していくべき課題を与えて頂くことができました。またさまざまなセッションにおいて各施設の先生方の行われている治療・また臨床研究について拝聴することが出来、今後の自身の臨床・研究への課題や示唆をいただけたと感じております。

3日間にわたり、食道がんを主として、大腸・子宮、また粒子線治療や分子標的薬など多くの分野にわたり勉強させていただくことが出来ました。大変有意義な時間をいただきました。このような機会を与えて下さいました、JAWROの関係各位の皆様には深く御礼申し上げます。有難うございました。